

## 幻想的な愛の描写

“ヒゲの前衛画家”桜井孝身氏（福岡）が福岡市電気ビル地階のウインドーギャラリーで26日まで個展を開いていた。

桜井氏といえば前衛画家集団“九州派”の総師。いまは同派も一人一派となったが、はやりのハプニングなどすでに十年も前にやってのけた。五年前アメリカに渡りサンフランシスコのヒッピー仲間へ。帰国するや“ネオ・ロマンチズム”九州ルネサンス“を吹きあげた。ハプニングはもちろん公募展粉碎劇の先頭にも立ち、エピソードにはこと欠かない。そんな桜井氏が殊勝にも？油絵個展を開いたのだが、ご本人は「わたしは油絵に命をかけとる」。

大小の油絵四十二点を展示していたのは地下街の通路。

普通の個展なら流し目でやりすごす通行人も、幻想的な愛を描いた彼の絵の前にはクギづけで立止っていた。サイケデリックな風景の中にキリストに似た人物やビーナス、現実を飛期（しょう）する”意志の羽”も描かれる。寓意的な画面には日本の絵画史にはみつからない異色の系譜がのぞいているようだ。

「彼自身か芸術」と評する人もある。

いつも、はみ出した人たちの側にいて、人間の愛の回復を夢みる。絵の題にもあるように”ロマンチックなボウケン者”そして、現代には貴重な存在の画家だろう。